

つくしだより



令和7年7月号

東京つくし会評議員会報告

都連 副会長 轡田 英夫

東京つくし会の評議員会が左記の要領で開催されました。

日時…6月19日10時～12時

場所…調布市文化会館

「たづくり」8階映像シアター
眞壁会長の挨拶、「つくしんぼ」斉唱ののち、来賓の方々の挨拶をいただきました。

●都議会関係・自由民主党 林あきひろ様 ・公明党 中嶋義雄様 ●団体
東京都手をつなぐ育成会 立原麻里子様 東京都自閉症協会 井上實様
みんなねっと 小幡恭弘様 ●メッ
セージ 都議会厚生委員会委員長
関野たかなり様 日本共産党 大山
とも子様 自由を守る会 上田玲子
様

続いての議長選出には、立川麦の会の飛岡訓子さんを選出し、定足数の確認を行いました。傘下47団体のうち、39団体の出席と、評議員60名のうち45名の出席と委任状10名計55名の出席をみて評議員会は成立しました。

【第一号議案】事業・活動報告

・「滝山病院事件」に対し、植松副会長を虐待防止委員会に派遣し、積

極的に関わってきました。旧滝山病院は、昨年9月に理事長・院長共に刷新し、11月からは名称を「希望の丘八王子病院」と改名しました。また、看護師等の常勤化、建物の改修等を実施したりして正常化に努力しています。・都議会各派や行政との予算懇談会は、各単会からも参加を呼び掛けました。・病院見学会を久しぶりに実施し、恩方病院に訪問しました。・家族相談員養成スキルアップ研修会を実施しました。

【第二号議案】決算報告

収入の部 会員数が減少したため、会費収入が減ってきています。支出の部 職員を一人減らしたことにより人件費が減少しました。・大家さんの好意により大幅に安い家賃のため収支が改善しています。

【第三号議案】事業・活動計画

今年もまた皆さまの要望を取り入れて、都議会各派・東京都への予算要望活動を行っていきます。

・アウトリーチ事業ですが、これは区市町村の選択事業となっているので、各単会では各々の所属行政庁に対して実施するように要望を出していただければと思います。・緊急時の医療体制ですが、移送会社は入院

先が決まっていなければ移送してくれません。緊急時に措置入院でなくても、ドクターカーを増やして病院に入院できるようにしてほしいという事と、二次医療機関の病院数をさらに増やしてほしいという要望です。・精神障害者の交通運賃割引の問題ですが、他の障害者団体と協力して、全ての障害者に適用されるようにしなければいけないと思っています。・旧精神科特例を実質的に廃止し、一般病院と同等な水準の医療の質を求めていく中で、人権侵害がありません。・心身障害者医療費助成制度の2級への拡大もぜひ実現を図る必要があります。

【第四号議案】予算案

つくしだよりを新たに100病院に送付する費用10万円を計上しました。

【第五号議案】役員体制

「会長」 眞壁博美 「副会長」 植松和光 本田道子 轡田英夫 「理事」 寺澤元一(会計担当) 中住孝典 大山竹彦 伊藤則子(新任) 高木むつ美(新任) 「理事補佐」 小澤輝江 前山栄江 浅水美代子(新任) 「監事」 告野恵子 鳥山克宏 「相談役」 羽藤邦利 野村忠良 「事務局」 西谷英理

令和7年度 都民精神保健福祉講演会

わが国の精神医療は、改革が唱えられて久しいのですが、未だケアの現場では患者に対する虐待等、様々な課題があり、医療人材のあり方も問われています。



6月19日午後東京つくし会では、(一社)日本精神科看護協会の業務執行理事兼政策企画局長の草地仁史(くさち ひとし)先生を講師として調布市文化会館たづくりにお招きしました。先生は、精神科看護の指導的立場にある方で、旧滝山病院の虐待防止委員会にも参加されています。今回のテーマは「看護職からみた精神科医療のこれから」。

精神障害の当事者の人権と権利が尊重・擁護され、地域でその人らしい生活ができるようにするためには、精神科看護はいかにあるべきかに関するお話です。

冒頭、舞台スクリーンにカエルの絵が映し出されました。次にそれが90度回転すると、同じ絵が馬面にも見える。見方によってカエルにも馬面にも見えるトリックアートです。しかし、見る者が「これはカエルだ」と思い込むと、なかなか馬面には見えない。先生は、「人は対象を自分の見たいように見してしまう。人の認識は固定しがちで変えるこ

とは難しい」と指摘されました。これは、講演全体の布石です。以下、先生のお話を要約してご紹介します。

わが国の精神医療の政策は、20年前から「入院医療中心から地域生活中心へ」のスロ―ガンを掲げて、当事者を精神科病院から退院させ、地域において自分らしく生活できるように、ケア・支援の体制を整備しようとしてきました。しかし、いまだゴールまで道半ば。2040年を見据えると、人口と共に患者も減少し高齢化していきます。長期入院に対する内外の批判もあり、精神科病院の病床利用率が低下する一方、高齢化に伴う身体合併症の患者は増えています。今、精神医療のあり方は、転換を余儀なくされているのです。これまでの精神科病院は、救急・急性期病棟と長期入院させる療養病棟で構成されました。しかし、今後は、療養病棟に代わって、地域生活に移行させるための「地域ケア病棟」が増えて行くこととなります。

これに伴い、精神科看護ケアのあり方も再構築が迫られています。その新たな方向性はつぎの3つです。

- ① 看護の対象は疾患ではなく、すべての人々の精神的健康であること
- ② 個人としての尊厳・人権・権利を尊重・擁護し、患者への危害や不利益を徹底的に防止すること
- ③ 当事者が自己決定による自律性を回復し、

その人らしく地域で生活できるよう、支援(エンパワメント)すること

これらは、従来の長期入院を前提とした院内看護とは根本的に異なります。今後の看護人材は、これらの新たな社会的要請に応えなければなりません。患者の症状や問題を探して、「とにかく治す」という院内看護の姿勢ではなく、患者が症状を抱えながらも地域で生活ができるよう(リカバリー)、生きづらさや苦痛を緩和する「やわらかく治す」という新たな姿勢が求められています。

特に、「危害を及ぼさない」(無危害)は看護倫理の中心です。患者への虐待は、医療従事者の認識や行為の延長線上にあり、業務上の感覚麻痺がその危険性を高めます。例えば、患者がナースステーションで頓服薬を求めても、看護師が「職員カンファレンスが終ってから」と断る風景がよく見られました。これは、患者のケアよりも職員の都合を優先する旧習であり、看護倫理上の誤りです。優先すべきは、患者にとつての最善の利益です。まさに、冒頭のトリックアートで試されたように、看護人材は、古い認識を転換することが求められているのです。

以上、草地先生のご講演は、新たな精神医療について学ぶ貴重な機会となりました。先生、誠にありがとうございました。

(文責 都連理事 寺澤元一)

特定非営利活動法人けやき定期総会訪問

都連会長 眞壁 博美

5月25日(日) 9時半～10時15分まで、けやき会の定期総会が、東村山市民センターで開催されました。例年ですと、市議会議員さん等が大勢来賓として参加されるのですが、今年は、市の水防訓練と重なってしまい、来賓が9名と、いつもの半分ぐらいでした。総会はずべての議案が無事承認されました。休憩を挟んで、10時半から11時半迄、講演会がありました。テーマは、「地域密着型・障害者スポーツの楽しみ方」で、講師は、「東京精神障害者スポーツサポートクラブ」の4名の方でした。「東京精神障害者スポーツサポートクラブ」の拠点は、八王子市にある就労継続支援B型「ブエンテ」です。そこで、障害者スポーツクラブの企画・運営をメンバーさんがスタッフとともにやっています。卓球、ヨガ、バレーボール、ウォーキングフットボール(走らないサッカー)など、初心者でもできそうなメニューもあり、「楽しい活動」を目指していますとのことでした。後ほど、精神障害とスポーツについて調べたところ、全国障害者スポーツ大会(全スポ)が、2001年に初めて開催されましたが、精神障害者が全スポに参加できたのは、2008年、バレーボール競技が初めてでした。

息子が安心して暮らせる東京を創るために

都連理事 伊藤 則子

次男が統合失調症になってから20年ほど経ちます。他人から物を受け取ると「自分の悪い状態がこれに移って辛い」と捨ててしまふのです。最近も注文した電気カミソリ器をうっかり受け取ってしまいすぐに捨てました。

次男は大学時代に「体の具合が悪い」と留年を繰り返して、ある日アパートに行ってみたら、布団以外何もない空っぽの部屋で、骸骨のように痩せて寝ていました。一人暮らしで栄養失調になったのだらうと思っていました。

冬の寒いある日、散歩してみると外に出て行きました。と間もなくドス黒い顔をし、口から泡を吹いて帰ってきたのです。医者に見せたら極度の自律神経失調症ということで、手に負えないから神経科に見せる様に言われました。

統合失調症の初期でした。家族会に参加した時の安心感を今も忘れません。精神障害について学び合えるのも幸せでした。親亡き後も安心して暮らしていける社会を作るためにも、家族会が必要です。出来ることをしたいと思います。

家族会に出会って

都連理事 高木 むつ美

どうも夜寝ていない。息子は26才でした。薬の効果で落ち着き、もう安心。と薬をやめたら、部屋に閉じこまりました。ご飯も水も飲みに来ない。ある日、私と二人で家に居たとき、「おまえたちもグルだろう?」と息子が包丁を持ち出しました。「え?何?怖い!」私は部屋を飛び出し、外に逃げました。それから、病院を拒否して、閉じこもる息子を治療につなげるまで、いつ殺されるかと恐怖でした。相談しても、良い案がなく、2ヶ月経つ頃、やっと民間救急で病院に入院しました。精神障害という病気があること、保健所に相談するということは知っていました。「なんで?私の子供が?」自分のこととしてはじめて向き合いました。なにもかも分からず、聞いてもきいても理解できませんでした。

私の原点です。家族会と出会って、講演会に行くようになり、私の場合は、まるで群盲象をなでる感覚で理解して行きました。

精神障害者は他の障害より差別されていることも理解しました。皆様と一緒に、この不条理を見つめながら、精神障害を持つ家族として、当事者と一緒に明るく、たくましく生きていきたいです。

どうぞよろしくお願いいたします。

このコーナーは、家族会間やつくし会との情報交流の場です。より良い家族会活動のために皆様に役立つ場にしたいと思っています。載せたい情報を毎月 25 日までに、つくし会事務所に、メール (tsukushikai@chorus.ocn.ne.jp) または FAX (042-453-7534) でお寄せください。

【情報提供】 パラアート TOKYO 国際交流展参加作品募集

「パラアート TOKYO」国際交流展は障害者の芸術作品(パラアート)の感性、才能、価値を世界へ発信し、情報を国際的に共有するコンセプトで開催いたします。

応募〆切 8月1日(金)厳守 内容 絵画・造形・書
 応募対象者 ・子供の部 10歳～17歳 ・大人の部 18歳以上 いずれも障害者対象
 開催日時・会場 2025年10月1日～5日 東京芸術劇場ギャラリー(池袋)
 主催 公益財団法人日本チャリティ協会 〒160-0022 新宿区新宿1-18-12 柳田ビル3F
 参加応募要領 HPで内容確認 申込み方法 WEBまたは郵送
 問合せ先 同協会パラアート事務局 TEL03-3341-0803 FAX03-3359-7964

★ 賛助会費 ★

井之頭病院 10000円
 ありがとうございます。

★ 講演会のお知らせ ★

○障害のある子の「親なきあと」

日時 8月17日(日) 午後2時～4時

会場 くたち福祉会館ホール

講師 渡部伸氏(親なきあと相談室主宰)

申込 先着順100名

問合せ シュロの会植松080-1211-6898

○「親なきあとに安心して暮らすために」

日時 9月13日(土) 午後1時半～4時

講師 渡部伸氏(親なきあと相談室主宰)

会場 小金井市市民会館「萌え木ホール」

申込 先着順50名 申込不要 無料

主催 小金井あじさい会 後援 小金井市

問合せ 森田042-388-3729

○こころの病のある方の家族セミナー

①精神科医師のお話

日時 9月7日(日) 午後1時半～3時半

講師 周愛巢鴨クリニック 花田照久医師

②散歩で発見・減災の秘訣

日時 9月21日(日) 午後1時半～3時半

講師 根津力三氏

両日会場 スマイルなかの3階AB会議室

申込予約制・先着40名 7月22日申込開始

主催 中野区中部すこやか福祉センター

問合せ 03-3367-7788 共催 たんぽぽ会

編集後記

NHKのEテレ「日曜美術館」(略称「日美」)を時々拝見します。ちょうど総合チャネルの8時の大河ドラマとぶつかるのですが、個人的に大河はマンネリ化を感じるので、私は「日美」を選んでいきます。などという、何か私に高尚な美術趣味があるかのように聞こえますが、別に美的センスや素養があるわけじゃありません。展覧作品を掘り下げる説明が素人の私にはけっこう面白いのです。

コメントーターと司会が専門家の話しを聴きながら、会場の作品をめぐる構成です。作者の人生や哲学、作品の時代背景や見どころ、作者が込めた思いなどなど。番組を見て展覧会に行くと、理解も深まるような気がします。「先入観なく、作品に向き合いたい」という方々は番組をご覧になりませんが、素人の私は水先案内を求めます。

私だけの受けとめ方かもしれませんが、作者が人生に何か課題を抱えて苦悶しながら生み出した作品には、不思議と心にしみて癒されるものがあります。辛さを抱える者どうし、作品を通して共感しあっているのかもしれない。充実した時です。

ただ、「日美」には困りごとが一つあります。紹介された展覧会には多くの人が押し寄せ、番組にあった静けさが無くなることです。

都連理事 寺澤元一